

2019年度第8回 歴楽講座



江戸前期、東葛の大名・旗本陣屋

主催：手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会

「陣屋」とは江戸時代に居城を持つことのできない小さい大名や旗本が、城の代わりに使ったものです。例えば柏市には本多氏の陣屋がありました。

関東では戦国時代の終わりは、天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原攻めとされています。その後、関東に徳川家康が入部、慶長8年(1603)江戸幕府が開かれました。

この江戸開府前後の時期は、謎も多いです。徳川家康とその配下の三河武士たちは、小田原でも鎌倉でもなく、江戸を拠点とし、三河や周辺から人を集めて江戸を整備しました。家康は小金を息子武田信吉の領地としました。後北条氏が歴史の表舞台から消え、江戸幕府が開かれると、東葛地域には、徳川氏の譜代家臣が配され、陣屋が置かれました。今では、その場所も分かりにくくなっていますが、当時の東葛の位置づけを含め考察したいと思います。

本土寺にある武田信吉生母於都摩の墓（左）、
松戸神社境内（中）、逆井観音寺に残る藤心陣屋の門（右）



 **日時・場所** 2020年2月23日(日) 12時半開場、13時～15時
パレット柏 ミーティングルームE
(柏市柏1-7-1-301号 Day One タワー 柏駅南口徒歩3分)

 **講師** 当会より

 **参加費** 300円(資料代込み)

 **その他** 申込不要。会場に隣接して駐車場はありますが、有料です。
当国会誌「水辺の城」第3号 頒布中。

 **問い合わせ** メール：info@matsugasakijo.net または Tel. 090-3579-5185 (森)
(平日のお問合せは午後6時以降にお願いいたします)

(C) 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会